

「武士道」の著者
新渡戸稲造と北海道

札幌剣道連盟理事
北海道電力(株)剣道部
教士七段 平池 暁
(北海道エアポート(株)
総務本部地域共生部長)



我々が稽古に励んでいる剣道も国際化が進み、宗家である我が国に武者修行に訪れる剣道愛好家も多くなりました。国際舞台で活躍する当連盟の古川先生、栄花先生、安藤先生のご尽力もあり、二〇一八年の世界選手権開催前には、私に通う養心館にも各国から多くの剣士が稽古に訪れておりました。

そんな折、稽古後、フランスから訪れた剣友と話していると、新渡戸稲造の「武士道」の話に至り、彼の口から義、勇、仁、礼と言った言葉が発せられた驚きと、私自身も答えに窮したことが今でも鮮明な記憶として残っております。ご案内の通り、海外で剣道を行う方々には、我々以上に武士道精神に興味を抱き、剣道の所作は勿論

のこと、剣と禅について学んでいる方も数多くいらっしゃいます。グローバル化の進展を感じるしだいです。

既にご存じの方も多いと思いますが、日本文化の国際理解の一つの引き金となった著書「武士道」を通じて、明治期の東洋の辺境に、素晴らしい道徳観や倫理観を持った日本人がいることを世界に知らしめた新渡戸稲造について紹介したいと思います。

新渡戸稲造と言えば旧五千円札を思い出す方が多いと思いますが、北海道と多くの所縁を持っております。激動の幕末に南部藩士の三男として盛岡に生まれ、一八七七年に札幌農学校に入学(二期生)、一八八一年に卒業して二年ほど北海道開拓使に勤務。その後東京大学に入学するも一年で退学しアメリカ、ドイツと留学後、札幌農学校に戻り多くの若者の教育、指導を行いました。なかでも新渡戸稲造が北海道に残した功績の中で特筆すべきは、一八九四年に札幌に夜学校を作り、貧しい子女を相手に夜の六時から札幌農学校や北大の先生や学生たちと共に、利他の精神を発揮し無償で教育にあたったことです。農学校の仕事が終わった後に指導にあたったようで、苦労も多かったように思います。

以来、一九四四年までの五十年間に亘りこの夜学校は続き、卒業生は千数百名、一時的に学んだ人を数えると実にその数は六千名を超えると言われております。因みに、この夜学校は、論語の「朋あり、遠方より来る」にちなんで遠友夜学校と名づけられました。

新渡戸は一九〇〇年にアメリカで「武士道」を出版した後、台湾総督でサトウキビの製糖工業を興したり、帰国して幾つかの大学で教育者として後進の指導にあたるほか、ジュネーブに渡り国際連盟の事務局次長として国際紛争の解決に取り組むなどまさに八面六臂の活躍をします。

特に、我々と係わりのある「武士道」は、当時の西洋社会に大きな反響を与え、国際社会における我が国の理解促進に貢献します。米国のルーズベルト大統領は感激して大量の本を買って家族や知人に贈呈しますが、このルーズベルトの仲裁により日露戦争の停戦を日本に有利に導いたと言う逸話が残っているほどで影響力の強さを感じさせます。

ここでは新渡戸稲造の数多い功績の一部しかご紹介できませんが、我々として忘れてならないのは、北海道と新渡戸稲造の深い縁です。二〇一二年に札幌で開催された新

渡戸稲造生誕百五十周年記念講演会をきっかけに、一般社団法人「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会(北大名誉教授松井理事長)」が設立され、二〇二三年建設目途に、遠友夜学校があった札幌市中央区南四条東四丁目の新渡戸稲造記念公園の一角に、「札幌遠友夜学校記念館」の建設を目指しております。

記念館は一階が展示室、ラウンジ、多目的ホール、二階が図書室、談話室、書庫などです。"一万人の皆様と共に"を合言葉に現在五千万円を目標に建設募金活動を行っております。

私も松井理事長のお誘いを受け「考える会」の理事に就任しましたが、新渡戸稲造が人生を通じて訴えた、公に奉じる勇氣、国際性、多様性、寛容性は、グローバル化が進む今日、我々に強いメッセージを発信しているように感じられ、今を生きる剣道人として責務を感じているところです。新渡戸稲造のように、利他的精神、慈悲と共生の心を持った若い人たちが、彼の人格形成に大きな影響を与えた北海道、札幌の地から育ち、北海道や日本はもとより、世界で活躍することを願っているところです。剣友の皆様のご理解とご支援をお願い致します。